

建設に拘泥する民衆を不法に拘束したり勾留したり裁判にかけたりする日本の巨大な暴力、そして多くの日本人の無関心と無責任が頭を去らないからである。

■親と子の絆

「脈」94号にはもう1編、小説が載っている。仲本瑩さんの「バラードの斧ひかりの檻」である。仲本さんは1949年、旧玉城村で生まれ、コザで育っている。詩人である。

「バラードの斧ひかりの檻」という題名には括弧書きで（全100）と付いている。最初の1~5が2014年5月に出た同人誌「あすら」に

田 母が夜の仕事を出てアパートでひとり母を待つ少年が原風景として感じている。私は幼い娘と暮らしていた。私と娘、ふたりだけの家族だった。熱を出して唸つて

いる小学生の娘をなだめてアパートに残し、夜の勤めに出

幸い何處にあら? 父を理解できなかつたように僕を母性以外で理解できなかつたことか? これほどの真夏の光と輝きに包まれながら、母子の位置はビッグバン宇宙の星のように、遠くへと、静寂のかなたへとほじかれてあるようだ。世界の不条理性は目の当

ちのぬされてしまう。
そうだ。母、父、兄弟姉妹、同居の親族。家族は心優しい者を苦しめる。仲本さんは母に対する鬱屈した、疎遠さと悔いと哀れみを切り立つことばで格調高く表現している。感動した。(小説家)

AI解明へ総合芸術展

視覚分野軸に作品紹介



来月3日からOIST

人工知能(AI)は芸術の領域にも進出でけるのか。围棋ソフト「アルファ碁」が世界トップクラスのプロ棋士に勝利したことに衝撃を受け、昨年5月発足した人工知能美学芸術研究会(=AI美芸研、東京都・中

ざわヒデキ代表)が11月3日から、沖縄科学技術大学院大学(OIST、ピーター・グルース学長)と共に、恩納村のOISTキャンパスで「人工知能美学芸術展」を開催する。中ざわさんは「AIに根

芸術分野におけるAIの最先端事例の一つとして、オランダでは人間がプログラミングした自動生成ソフトを使い、レンガラントの筆致や色彩的に絵を描きたいという衝動があるのか考えたい」と話す。

芸術分野におけるAIが「新作」を使いを学習したAIが「新作」を制作しているといつ。オランダでは人間がプログラミングした自動生成ソフトを使い、レンガラントの筆致や色彩的に踏み込み、AIの「自律的な芸術活動が可能かどうかを解説したい」と意欲を燃やす。

「何を美しいと思うのか。そもそも美しいと思う心があるのか、といった普通の人間にしかできないはずと考えられていないことが本当にそうなのか、研究したい」と強調する。

AI美芸研は中ざわさんが講師を務める東京・神保町の美学校などで1~2カ月に1

回の研究会を開き、議論を重ねてきた。今回初めて、国内外の表現者や研究者によるAIをテーマとする芸術の現在を展示しようとした計画。「世界

最初」と銘打ち、視覚芸術分野を軸に音楽や文学、コンセプチュアルアートなどさまざまな作品を展示する。

最も古いのは1950年代にメキシコのコノロン・ナンカロウが制作した自動演奏ピアノ。異色な作品としては人間以外の知性的芸術活動にも注目し、チンパンジーが描いたコノサートを1回開く。詳細はウェブサイト、<https://groups.oist.jp/ja/aia/>

た絵画も並ぶ。参加作家は45組(うち6組はチンパンジーとボノボ)。展覧会は来年1月8日まで。会期中は「AI美学」「芸術」「未来のAI」などと題したシンポジウムを6回開催。「機械美学音楽」「人工知能音楽の先駆」などと題したコノサートを1回開く。詳細はウェブサイト、<https://groups.oist.jp/ja/aia/>

問い合わせはOIST、電話098(966)2184。問い合わせはOIST、電

顕微鏡で遺

して涙を石器の具体的な使用方法などを窺い知ることができる。また、土器に沖縄本島北部の材料が使われたことを何度か紹介したが、これも土器の胎土を観察して、その中に含まれる石粒や鉱物を同定した結果による。

他にも皿製品や骨製品に残る切跡、磁器に産地による胎土の緻密さの違いなど、わかるまないことが多く、顕微鏡のレンズを通して見えてくるのである。また最近は、土器や陶器の胎土に残った種子や昆虫などの圧痕を探すことに取り組んでいる。この土器圧痕からは、当

たのだが、写真の撮影がつたり磨いたりなどの加工した痕影、長いと繋いで、長いことが自身、こ